

聖書日課 『からし種』 2018. 4. 8～ 4. 15

<p>8 日(日)</p> <p>エゼキエル 13 章</p>	<p>「そのとき、おまえたちはわたしが主なる神であることを知るようになる」(9、21、23 節)。主が語っていないのに『主は言われる』と語る罪に直面し、裁かれる時、私たちは主と出会う。主の裁きは私たちを滅ぼすのではなく共に生きようという招き。主の言葉にいつも正しく聴く者とされたいと願います</p>
<p>9 日(月)</p> <p>エゼキエル 14 章</p>	<p>「彼らは自分の息子、娘たちすら救うことができない。彼らは自分自身を救いうるだけである」(16 節)。義人は、その義しさゆえに救われるが、家族までの救いではない。神の前で、わたしたちはただ一人で立つほかない。神が顔を向け、手を伸ばし裁くのは、わたしたちの心をつまめたいと願うから</p>
<p>10 日(火)</p> <p>エゼキエル 15 章</p>	<p>「わたしは顔を彼らに向ける。彼らが火から逃れても、火は彼らを食い尽くす」(7 節)。ぶどうの木から、果実、ぶどう酒が取れるが、その枝、幹は、ほかの木に比べると簡単に燃えてしまう。わたしたちは、主の裁きが下る時、その怒りを理解し、その裁きを通してイスラエルの主を知る者となる</p>
<p>11 日(水)</p> <p>エゼキエル 16 章</p>	<p>「わたしは血まみれのお前に向かって『生きよ』と言った」(6 節)。自分の罪に目を留めず、異邦の民の罪に思いを寄せる主の民に、主は語る。弱く小さかったエルサレムに心を寄せた主との契約に戻れ。と。自分の罪に目を留めるとき、永遠の契約を立ててくださる主と出会いたいと願います</p>

聖書日課 『からし種』 2018. 4. 8～ 4. 15

<p>12日(木)</p> <p>エゼキエル 17章</p>	<p>「わたしは高いレバノン杉の、(中略)その柔らかい若枝を折って、高くそびえる山の上に移し植える」(22節)。 背の高いレバノン杉からぶどうの木へと低くされる時、主の言葉が自分自身に刺さる。主の言葉によって悔い改め、誠実さと出会う時、主はぶどうの木からレバノン杉へと移し植えて下さる。</p>
<p>13日(金)</p> <p>エゼキエル 18章</p>	<p>「罪がお前たちをつまづかせないようにせよ」(30節)。 主に選ばれた民が最初に結んだ契約が、時代がくだるごとに意識が薄れていく。先祖の祝福は、その代限り。何が義しさか、先代の歩みから学び、吟味し、主の義しさを、「わたし」が「今」主と、語り合いながら、祈り求めて歩みたい。</p>
<p>14日(土)</p> <p>エゼキエル 19章</p>	<p>「この歌は悲しみの歌。悲しみの歌としてうたわれた」(14節)。「神に立ち返って、共に生きよう」と呼びかけられても、その声に応答しなかったイスラエルの指導者たち。その姿に痛みを覚えて歌う哀歌。悲しみの歌から主の流された涙の深さとその慈しみをいただきましょう。</p>
<p>15日(日)</p> <p>エゼキエル 20章</p>	<p>「わたしは生きている。お前たちが尋ねても、わたしは答えない」(3節)。主なる神は「ご利益の神」ではないので、私たちが願い求めても「答えない」時がある。が、そこには必ず理由がある。私たちが本当に目を向けるべきものに目を向け、主の御旨を真剣に求めることを深く望んでおられるゆえに。</p>